

天平寶字二年正月三日ノ初子ノ玉簫卽是ナルベキコトハ、同寶藏ニ鐵錢金嵌ノ儀鋤アリテ、其柄ニ子日辛鋤、天平寶字二年正月ト銘セル、同時ノ用相證スベキ也、但二柄ハ帝謙○孝ト光明皇后トノ御ナラン歟、諸王卿ニ賜シハ其製ノ精龜今知ベカラズ、

〔萬葉集二十二年○天平寶字〕春正月三日、召侍從堅子王臣等、令侍於内裏之東屋垣下、卽賜玉簫肆宴、于時内相藤原朝臣奉勅宣諸王卿等隨堪任意作歌并賦詩、仍應詔旨各陳心緒作歌賦詩人未得諸

詩并作歌也

始春乃波都禰乃家布能多麻婆伎手爾等流可良爾由良久多麻能乎、

〔萬葉集十六〕長忌寸意吉麻呂歌八首

詠玉掃鎌天木香棗歌

玉掃荔來鎌麻呂室乃樹與棗本可吉將掃爲、

〔千載和歌集十九〕と。りは、き。

秋の野に誰を誘はむゆき歸りひとりははきを見るかひもなし

〔雍州府志七土產〕棕櫚等 五條大佛邊人製之、又八幡山南樟葉村之内、中芝土人是爲巧手來賣京師、造之法、至秋剥取棕櫚毛皮束之、以圓竹爲柄、是謂棕櫚等、近世棕櫚葉細割束之作等、然不及毛皮、

〔相良文書三十六〕慶長拾一年丙午江戸御屋形作日記○中略

永樂貳貫九百九十三文買にて 遣方○中

六月廿三日
一永樂三十五文

亥ゆろは、き二本

〔國花萬葉記一上〕金銀竹木土石

棕櫚等 五條大佛の邊ニ造之

〔大江俊矩記〕文化三年十二月廿七日庚子、清涼殿御煤拂也○中略